7月の園だより

社会福祉法人　であいの里　さやま保育園
2023年　7月1日

＊＊保育目標　照育　ーおそだてー
＊ほとけさまや、周りの人たちにありがとうの感謝の気持ちを持つ。
＊体を十分使って、水遊びや夏のあそびを友だちと楽しむ。

【法話】

お経

「きーみょーうむーりょーうじゅにょらいー
なーもーふーかーしーぎーこー」

雨の日は、地域により豪雨で災害をもたらし、晴れの日は蒸し暑いにも係わらず、朝晩は冷える事もあり、体調が難しい時期です。これからの夏の暑さに向けて、栄養・水分・睡眠をしっかり取るよう心掛けたいものです。

保育園の礼拝では、「正信偈」の最初の二句を歌にした「幼児のおつとめ」を、みんなで大きな声で、おつとめしています。

「お経」って何でしょう？お経は亡くなった人のために読むとか、お経を読むと良いことがあると思っている人がいますが、そうではありません。コロナに罹らないとか、治る訳でもありません。お経は、呪文でも、おまじないでもありません。

お経は、お釈迦さまのお話しされたことを、後に残すために、後の人たちが、文字を作り、文字にしてくださったものです。　お釈迦さまは、今から二千五百年の昔、老若男女、いろいろな人々に、たくさんのお話をされました。その仏さまのお話、真実の教えが説かれているのがお経なのです。生きている私のための教えが説かれているのですから、私が聞かせていただかなくては意味がありません。でも漢文に訳さえたお経は難しいですから、私たちは「ご法話」を聴聞してお経のお心を聞かせていただきます。

お経を仏さま（阿弥陀如来さま）に向かって読むのは、仏徳讃嘆です。阿弥陀さまのお徳を讃嘆（ほめたたえ）させていただき、お経のお心をいただきましょう。

合　掌

今月の予定は、パピーナへ移動いたしました。

「笑って学ぶ子育て～子どもが育つ異年齢保育～」

岩城先生の子育てオンライン講座は、みなさんご覧になられましたか？7月7日（金）まで視聴可能です。さやま保育園のためにご講演いただき、「我が子が幸せに生きるためには、我が子のまわりも育ちあうこと」や「生まれてきたことを喜び、自分の良さを生かして生きること」のお話ですので、ぜひ何度でもご覧ください。

さやま保育園ではどのクラスもさまざまな遊びの環境コーナーが準備されていて、そこから子ども達は自分の心と相談して好きな遊びを選び、選択する経験『主体性』を育てています。さらに、遊びの環境には友だちとの関わりも大切になります。「子どもは遊びの中で生きる知識や技術を学んでいる。子どもにとっての遊びは、学習であり、研究であり、挑戦である。」「一人ひとりの子ども達の興味に沿った、選択の幅が広い、ちょっと努力したら手が届く『最近接領域』がたくさんある事」そんな遊びの中で、友達との関わりを築いていくのが異年齢保育であると、岩城先生は仰っています。

異年齢の子ども達が交流することは、コミュニケーションや協力のスキルが身につき、社会性が育ちます。年齢の異なる子ども達がいっしょに遊ぶと、幅広い知識や経験を共有し、学び会う機会が広がります。また、年齢の異なる子ども達と関わることで、自己肯定感や自己効力感が高まり、成長に対する自信を培うことができます。そして、兄弟姉妹のような関係性が育ち、年上の子が年下の子のお世話をするなど、子ども達同士の絆が深まります。

4月から始まった以上児のサークルタイムですが、「よく見て」「よく聞いて」「よく真似て」、育ち合っている姿がわかります。自分の思ったことを話す経験、友だちの考えを聞く経験、3歳児の子ども達も、その姿をとてもよく見て、真似て、真剣に聞いています。また、それを真似て、うさぎ組のお友達もサークルタイムに挑戦しています。

ぞう組もきりん組も普段のコーナー遊びを見ていると、異年齢で遊ぶ姿が増えてきました。自然に最近接領域の中で、「知っている」レベルから「わかっている」「できる」そして「教えられる」レベルの経験知が育っています。

保育園で遊んでいると、喧嘩やトラブルも起こってきますが、それも子どもたちの人生の練習問題と思い、「助けて」「ごめんね」のアイテムを使いながら、乗り越えていける解決策(問題解決能力)を自分で見つけ出せるよう、見守っていきたいと思います。「生まれてきたことを喜び、与えられた能力(好きなこと・得意なこと)を伸ばして、自分と自分のまわりのために使うそんな子どもたち。日本の未来、世界の未来を作っていく子どもたち」を、いっしょに保育園と保護者の皆さまと、育てていきましょう。